

東南アジアの自然と農業研究会

第 118 回研究例会のご案内

第 118 回定例研究会を開催いたします。今回は、高知大学大学院 黒潮圏海洋科学研究科の田中 壮太氏に下記のように報告していただきます。皆様のご参加と活発な討論を期待してお待ちしております。

記

日 時： 2004 年 12 月 10 日 (金) 午後 4 時～午後 6 時

会 場： 東南アジア研究センター 東棟 2 階第 1 教室
京都市左京区吉田下阿達町 46
川端通り荒神橋東詰め

話題提供者： 田中 壮太 氏 (高知大学大学院 黒潮圏海洋科学研究科)

話 題： 「マレーシア・サラワク州における実験焼畑」

要 旨：

焼畑の火入れ・耕作が土壤生態系に及ぼす影響を定量的に評価することを目的に、サラワク州の 4 試験地において実験焼畑を行った。バライリンギン、サバルル、ニア試験地では、100、200、300 t/ha の焼却処理区を、バカム試験地では 20、100 t/ha の焼却区を設け、陸稲を栽培した。細・中粒質土壤では、灰の土壤酸性緩和・施肥効果は、火入れ前の土壤 pH が高ければ少なくとも陸稲収穫時まで持続した(ニア)が、pH が低ければ収穫時には低下した(バライリンギン)。また、前者の場合であっても、可給態窒素の消耗が激しかった。焼却バイオマス量を増加させても、陸稲収量はあまり増加しなかった。砂質土壤(サバルル、バカム)では、火入れ後 1～3 ヶ月で灰の効果は見られなくなった。陸稲収量は低かった。持続的とされる伝統型焼畑であっても、極めて脆弱な養分動態の上に成立していることが示唆された。

問い合わせ先： 星川圭介 総合地球環境学研究所

Tel. 075-229-6155 [mailto: hoshi@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:hoshi@kais.kyoto-u.ac.jp)

田中耕司 京都大学東南アジア研究センター

Tel. 075-753-7307 [mailto: kjtanaka@cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:kjtanaka@cseas.kyoto-u.ac.jp)

ホームページ： <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/seana/>